

東京都長期ビジョン ～「世界一の都市・東京」の実現を目指して～

<抜粋版>

※平成 26 年（2014 年）12 月策定（該当ページ P 60～66）

都市戦略 1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

政策指針 2 美しく風格があり、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境の構築

3 到達状況・課題

（ソフト面でのバリアフリー化の推進）

- 誰もが必要な情報を容易に入手できるよう、音声・点字や文字・手話など、多様な伝達方法による情報提供等を推進するとともに、子供たちや地域住民を対象に思いやりの心を育むユニバーサルデザイン教育を促進してきた。
- 2011 年度の東京都福祉保健基礎調査（都民の生活実態と意識）では、「困っている人を見かけた時に自分がとった行動」を都民に聞いた設問において、「積極的に自ら手助けをした」と回答した人は 58.1%であった。
- 2020 年大会の開催に伴い、国内外から多くの人を訪れることを見据えると、ハード面でのバリアフリー化と併せて、高齢者や障害者等への配慮や積極的な手助けなど思いやりの心を醸成するソフト面での取組が一層求められている。

4 これからの政策展開

2 情報バリアフリーや思いやりの心の醸成などソフト面の取組の推進

1 様々な障害の特性等に配慮した情報バリアフリーの推進

- ★ 地域のバリアフリーマップの作成やICT技術を活用した歩行者の移動支援、コミュニケーション支援ボードの普及など、区市町村の様々な取組を支援し、誰もが必要な情報を容易に入手できる環境を整備する。
- ★ 公共交通機関、民間建築物等における段差のないルートや車いすに対応したトイレの場所など、様々なウェブサイトに掲載されているユニバーサルデザインに関する情報を一元化し、全ての人が外出に必要な情報を容易に収集できるポータルサイトを構築する。

2 思いやりの心を醸成する心のバリアフリーの推進

- ★ 心のバリアフリーに関するガイドラインを活用するなどし、学校や地域でのユニバーサルデザイン教育や福祉のまちづくりサポーターの養成、事業者の接遇向上に向けた普及啓発等の様々な取組を行う区市町村を支援し、思いやりの心の醸成と障害者等の社会参加を図る。